

明石市立
明石商業高等学校
長期構想検討会議

報 告 書



平成20年1月18日

目 次

報告書	1
はじめに	2
1 高等学校教育の現状と課題	3
(1) 国の状況	3
(2) 兵庫県の状況	4
(3) 明石市内の高等学校の状況	5
2 明石商業高等学校の改革	6
～ 明石市立明石商業高等学校長期構想検討会議 報告内容 詳細 ～	
(1) 明石商業高等学校長期構想検討会議について	6
(2) 明石商業高等学校の現状について	7
(3) 商業高等学校を取り巻く環境の変化について	7
(4) 明石商業高等学校の改革について	8
(5) 明石市立明石商業高等学校長期構想検討会議次第	9
おわりに	10

平成20年 1月18日

明石市教育長
森田 尚敏様



明石市立
明石商業高等学校長期構想検討会議
会長 廣岡 徹

報 告 書

本会議は、国や県の高校教育改革の進捗状況・社会状況の変化や学校の現状をかんがみ、魅力ある明石商業高等学校の実現に向けて様々な角度から検討した結果、明石商業高等学校の特色化をすすめ、生徒の夢や希望がかなえられる学校づくりを進める改革を2点提案します。

1 通学区域に関すること

平成20年度入試より

推薦入試を全県学区とすることを提案します。

但し、学力検査においては従来通り明石学区とする。

(平成19年6月5日付け中間報告書で報告済)

2 学科新設に関すること

明石商業高等学校が、21世紀を担う生徒の夢や希望を叶え、社会に貢献できる人材育成をめざす魅力ある学校づくりを進める改革として以下の学科の設置を提案します。

- (1) 会計科 商業の専門性を高め、高度な知識と専門性の高い資格を取得し、大学・専門学校への進学を目指す。
- (2) スポーツ科 明石商業高等学校の活発なスポーツを特色化する。知徳体の調和のとれた人間形成を図る。
但し、施設整備や備品整備など費用対効果を十分に検討すること。

【はじめに】 (明石市の成り立ちと高等学校)

明石市は、大正8年(1919年)11月1日に、全国で第81番目、兵庫県下で4番目の市として市制が施行され、当時の人口は約3万2千人、面積は7.7平方キロメートルであった。その後、昭和17年に1村(林崎村)を、26年には3町村(大久保町、魚住村、二見町)をそれぞれ合併し、今日では人口約30万人、市の東と北は神戸市と接し、西は加古川市、稲美町、播磨町と接し、面積49.22平方キロメートルを擁し、昭和35年以降は、企業進出と住宅開発に伴う阪神都市圏からの人口流入などを受け、住宅都市・産業都市としての成長が著しい中堅都市に発展した。現在は、阪神都市圏と播磨臨海地域、そして海を隔てて淡路・四国と結ぶ海陸交通の重要な拠点でもある。

明石市の高等学校は、大正10年「明石市立高等女学校」の開校と大正12年の「明石市立明石中学校」の開校に起源する。戦後は、昭和23年に「明石市立明南高等学校(昭和31年に校名を明南から明石南に変更)」「兵庫県立明石高等学校」となり、その後、昭和26年「明石市立東高等学校」が開校され、昭和40年に「明石南高等学校」と「東高等学校」は兵庫県に移管され「兵庫県立明石南高等学校」「兵庫県立錦城高等学校」(定時制)となった。一方、昭和28年に「明石市立明石商業高等学校」が開校し、現在唯一の市立高校として現在に至っている。また、急激な人口増加に伴い昭和47年兵庫県立明石北高等学校が開校し、昭和50年には、3校による総合選抜制度が実施された。その後、昭和51年に「兵庫県立明石西高等学校」、昭和55年に「兵庫県立明石清水高等学校」、昭和59年に「兵庫県立明石城西高等学校」が開校され、現在、明石市内には、全日制県立高校6校 全日制市立高校1校 定時制県立高校1校の8校が設置されている。

平成12年から始まる県立高等学校教育改革第一次実施計画に伴い、明石学区においても大きな制度改革が進んでいる。平成19年には、明石南高等学校が、総合学科に改編され、同年 県立高校の商業に関する学科においては学区を全県学区に変更している。明石商業高等学校をはじめ商業高校にとっては大きな岐路を迎えている。また、入学者選抜においても平成20年から、32年間続いた総合選抜制から、複数志願選抜へと入学者選抜制度が変わり、明石高等学校と明石西高等学校では特色選抜も実施される。こうように大きく制度改革が進む中、明石商業高等学校も時代の流れをくみ取り、社会と生徒のニーズに応えられる高等学校に変革することが求められている。

(明石市沿革：明石市ホームページ参照)

(略年表)

大正 8年	明石市誕生		
大正 10年	明石市立高等女学校設立	(現	兵庫県立明石南高等学校)
大正 12年	明石市立明石中学校設立	(現	兵庫県立明石高等学校)
昭和 17年	林崎町 合併		
昭和 26年	明石市立東高等学校設立	(現	兵庫県立錦城高等学校)
	大久保町、魚住町、二見町 合併		
昭和 28年	明石市立明石商業高等学校設立		
昭和 47年	兵庫県立明石北高等学校設立		
昭和 50年	総合選抜制度実施(普通科)		
昭和 51年	兵庫県立明石西高等学校設立		
昭和 55年	兵庫県立明石清水高等学校設立		

〈参考〉

- ・ 学校教育法の一部を改正する法律案の概要（平成19年6月）
 - ① 各学校種の目的及び目標の見直し等
 - ② 副校長その他の新しい職の設置
学校における組織運営体制や指導体制の確立を図るため、幼稚園、小・中学校等に副校長、主幹教諭、指導教諭という職をおくことができることとする。
 - ③ 学校評価及び情報提供に関する規定の整備
 - ・ 学校は、学校評価を行い、その結果に基づき、学校運営の改善を図ることにより、教育水準の向上に努めることとする。
 - ・ 学校は、保護者等との連携協力を推進するため、学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。
 - ④ 大学等の履修証明制度
- ・ 教育3法の改正（平成19年6月）
 - ① 学校教育法 上記参照
 - ② 教育職員免許法及び教育公務員特例法…免許の更新制（10年・30時間の講習）
 - ③ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律…教育委員会の責任体制の明確化

資料 1 教育基本振興計画（文部科学省ホームページより）

(2) 兵庫県の状況

- ① 兵庫県の教育改革は平成10年に「全日制高等学校長期構想検討委員会」が設置され以下のように推進されている。

平成11年	「全日制高等学校長期構想検討委員会」報告
平成12年	「県立高等学校教育改革第1次実施計画 平成12年～20年」
平成19年	「県立高等学校長期構想検討委員会」報告
平成20年	「県立高等学校教育改革第2次実施計画 平成21年～25年」

- ② 第1次実施計画に基づいて以下のように推進された。

I 新しいタイプの学校

- ・ 総合学科 14校
- ・ 全日制普通科単位制高校 7校
- ・ 生涯学習社会に対応した多部制・単位制高校 2校
- ・ 新しい専門高校 1校

II 各学校の特色化

- ・ 普通科コースの改編
- ・ 特色ある専門学科

III 中高一貫教育

IV 生徒急減期における学校の発展的統合

V 小規模学区の見直し

VI 通学区域の見直し

- ・ 平成19年度 県立高等学校の商業及び家庭に関する学科の通学区域を県下全域に

VII 新しい選抜制度の導入

- ・ 複数志願制
- ・ 特色選抜

- ③ 第1次実施計画の評価

推進計画の評価として以下の点が指摘された。

- ・ 国際化・高度情報化など社会の変化や少子化の進展、高校進学率の上昇に伴う生徒の多様化への対応という観点においては、兵庫県の高次教育改革は概ね評価できる。
- ・ 総合学科、単位制高校など新しいタイプの学校は魅力ある学校となっており、学びたいことが学べる学校選択が進んでいる。
- ・ 複数志願選抜と特色選抜からなる新しい選抜制度は、当初の目的が概ね達成されている。
- ・ 今後は、一層各学校での教育内容の充実や教職員の意識改革を図っていく必要がある。

④ 第2次実施計画の方向性

今後の高校教育の在り方を視野に入れつつ、その改善・充実を図ることに配慮しながら「第二次実施計画」を考える。

このように兵庫県においては、平成12年より教育改革が推進され、大きく制度改革が進められた。教育の特色化が進み多様な進路希望が実現できる制度に変わろうとしている。

(3) 明石市内の高等学校の状況

明石商業高等学校は昭和28年に開校され、現在唯一の市立専門高校として55年の歳月を積み重ねている。

戦後、市内の県立普通科高等学校は、明石高校・明石南高校の2校が設置され、昭和47年明石北高校が開校された後、昭和50年度に明石高校・明石南高校・明石北高校の3校による総合選抜制度が導入された。その後、昭和51年に明石西高校、昭和55年に明石清水高校、昭和59年に明石城西高校が開校し、県立普通科高校は6校による総合選抜制度が定着し、明石学区の入学者選抜は「総合選抜6校」と「単独選抜（明石商業高校、錦城高校）」が実施されてきた。その間、昭和58年度に明石高校に美術科、昭和61年度に明石北高校と明石清水高校に理数コース、明石西高校と明石城西高校に英語コースが設置され、平成15年度に普通科のコースは明石北高校が自然科学コースに、明石清水高校が科学と人間コースに、明石城西高校がグローバル探求コースに、明石西高校が国際人間科に改編された。

このように改革が進む中、平成19年度に明石南高校が総合学科に改編し、平成20年度からは、目的意識を持って主体的に自己の進路を選択し決定することができる複数志願選抜と特色選抜（明石高校：生命科学探究類型、明石西高校：教育類型）が実施される。また、明石商業高校も推薦入試を全県学区に変更するなど制度改革が進められている。

平成20年度 入学者選抜

2月	推薦入試	明石商業高校	商業科	全県学区
		明石南高校	総合学科	全県学区
		明石高校	美術科	全県学区
		明石北高校	自然科学コース	明石学区
		明石清水高校	科学と人間コース	明石学区
		明石城西高校	グローバル探求コース	明石学区
		明石西高校	国際人間科	全県学区
	特色選抜	明石高校	生命科学探究類型	40名 明石学区
		明石西高校	教育類型	40名 明石学区

3月	学力検査	明石商業高校	商業科	明石学区
		明石南高校	総合学科	明石学区
		明石高校	普通科 複数志願選抜	明石学区
		明石北高校		
		明石清水高校		
		明石城西高校		
		明石西高校		
		錦城高校（定時制）	普通科	全県学区

明石学区 … 明石市、神戸市のうち長坂中（垂水区の区域を除く）、太山寺小、伊川谷中、井吹台中、櫛谷中、玉津中、王塚台中、平野中、西神中、神出中、岩岡中の区域 淡路市のうち岩屋中、北淡中の区域

明石市の児童生徒数においては、小学生児童数が2,900人前後で推移しており、急激な生徒の増減はないと予想される。

- 資料 2 明石市内の高等学校の変遷
3 明石市内の生徒数の変化

2 明石商業高等学校の改革

～ 明石市立明石商業高等学校長期構想検討会議 報告内容 詳細 ～

(1) 明石商業高等学校長期構想検討会議について

平成17年度から校内において長期構想検討委員会を発足し、平成18年度にかけて、11回開催された。平成19年度からは、校内の議論をより発展し、学校外からの委員を迎え明石市立明石商業高等学校長期構想検討会議を発足した。この検討会議において、校内の議論や兵庫県の改革の方向性を見極め明石商業高校の将来像について広く意見を求めた。

- 資料 4 要綱
5 フロー図
6 委員名簿

(2) 明石商業高等学校の現状について

明石商業高等学校は、昭和28年に開校し、55年間の卒業生は19,000人を越え東播磨・明石の産業を支える商業高校としての実績を積み重ねている。定員は 1学年 40人 8学級 320人 3学年の総定員 960人である。

校内生活は、概ね落ち着いてはいるが、生徒指導上の問題をはじめとして課題はある。

この現状を改善する取り組みとして、

- ① 毅然とした生徒指導
- ② クラブ活動による活性化
- ③ 類型による教育課程の再編
- ④ 資格取得への支援体制づくり
- ⑤ きめ細やかな進路指導
- ⑥ キャリア教育の実践…株式会社明商による職業体験
- ⑦ 地域連携事業…小学校での電卓教室や市民向け電卓講習会 など

このような取組の成果として、校内に一定の秩序が保たれ、資格取得のための補習授業や上級大会に向けて努力するクラブの活気がみなぎり校内生活の健全化が進み、さわやかなあいさつが交わせる生徒が増えつつある。

また、進路については、建学当初は就職を目指す生徒や家業を継ぐ者も多くいたが、近年は、進学を希望する者が多くなり、就職希望と進学希望がほぼ同数の状況になっている。本校の就職希望者は例年45%（120人程度）前後を推移しているが、本年は400人を越える求人があった。これは、今までの実績と商業に関する学習の成果であり、進学に関しても、商業科推薦・指定校推薦・公募推薦・AO入試を活用した実績が上がりつつある。

資料 7 入試の状況

8 入学者意識調査

9 退学者数の変化

10 部活動の活動状況（明商だより 平成19年9月）

11 進路状況 就職 進学（進学先）

12 資格取得状況

(3) 商業高等学校を取り巻く環境の変化について

商業高校についての議論が全国的に進んでいるが、戦後の改編では、商業科は普通科に準ずる学科として、学区ごとに設置されてきた。しかし、近年「情報科」「会計科」「国際経済科（国際ビジネス科）」など商業の分野の特色化や専門性が深まり、それぞれの分野に適した就職先・進学先も細分化されている。また、学校選択科目や総合学習（課題研究）などの学習では地域や学校の特性を生かし、社会と直結した職業教育の実践（販売実習やインターンシップなど）も取り組まれている。これは、職業教育を基盤とした商業科の目指す新たな方向性を示している。今後、このような商業教育の実践には高度な知識（ビジネス基礎、簿記会計、情報処理、計算事務、商業英語など）の習得が不可欠になっている。

また、高校と大学の連携が図られ7年間で税理士や公認会計士を目指す取り組みが始まるなど、就職に重きをおいていた商業高校から進学に重きをおいた商業高校に転換しようとしている学校も多い。これは、社会構造が細分化される中、個性に応じた進路選択の多様化、知識の高度化による専門性の高い資格や能力の必要性からくるものである。

(4) 明石商業高等学校の改革について

明石学区の高等学校や県下の商業高等学校においても、さらなる特色化を進めることに英知を絞っており、明石商業高校も特色化を図らなければならない。

平成21年度から始まる兵庫県の第2次改革の方向性は「魅力ある学校づくり」を進めることである。市立高校の特性を生かして特色化を図ることが、改革の主題である。

また、中学生に対しては、高校生活を通してどのような自己実現ができるか、高校側のわかりやすい説明が求められている。これは、多様化する進路選択を実現するために克服しなければならない課題である。今後の改革の進捗状況にあわせて、その特色をさらに明確にし、個々の進路希望の実現に向けて普通科高校と住み分けていかななければならない。

このような状況をかんがみ明石商業高等学校の特色化を図る改革として以下のことを提案する。

① 通学区域に関すること

「推薦入試を全県学区に変更する」ことを提案する。

・平成19年度より、兵庫県立高等学校の商業に関する学科の入試は、全県学区に変更された。明石商業高等学校においても、県立高校の制度変更に伴い推薦入試において、平成20年度入試より全県学区で実施することを提案する。

(中間報告書で報告済)

資料 19 中間報告書写し

② 学科新設に関すること

・高校生活において、目的意識を持ち、自分の将来像を描き、社会に貢献できる人材を育成するために、商業に関する専門性を高め、高度な知識と資格を取得し大学や専門学校への進学を目指す商業科の中核となる学科と、スポーツを通して「知徳体」の研鑽を深めさわやかな人材を育成し活性化を進める学科として「会計科」と「スポーツ科」の新設を提案する。

ア 会計科

- ・専門性の高い商業の知識と資格を取得し、大学・専門学校への進学を目指す。
- ・高度な学習に対応できるソフトやパソコンなどの環境を整備する。

イ スポーツ科

- ・クラブ活動が活発である明商のスポーツに関する分野の特色化を図り、活性化を進める。
- ・教育課程上必要な専門的な技能習得が円滑に行われる施設・備品などの整備を図る。
- ・施設及び備品などに係る費用対効果を検討すること。

(5) 明石市立明石商業高等学校長期構想検討会議次第

《第1回》 平成19年5月28日(月) 午後3時～5時
(於) 明石商業高等学校 同窓会館

- 1 委嘱状交付
 - 2 教育長あいさつ
 - 3 委員及び事務局職員紹介
 - 4 会長・副会長あいさつ
 - 5 議事 (1) 長期構想計画趣旨説明
(2) 学区について
(3) その他
・今後の日程について
- 資料 13 第1回 議事録要旨

《第2回》 平成19年6月5日(火) 午後3時～5時
(於) 明石商業高等学校 同窓会館

- 議事 (1) 通学区域について
(2) 学科に関すること
(3) 商業科の充実について
(4) 検定試験について
- 資料 14 第2回 議事録要旨

《第3回》 平成19年7月3日(火) 午後3時～5時
(於) 明石商業高等学校 同窓会館

- 議事 (1) 学科に関すること
- 資料 15 第3回 議事録要旨

《第4回》 平成19年8月7日(火) 午後3時～5時
(於) 明石商業高等学校 同窓会館

- 議事 (1) 兵庫県の高校改革について
(2) 意見交換
- 資料 16 第4回 議事録要旨

《第5回》 平成19年10月15日(月) 午後3時～5時
(於) 明石商業高等学校 同窓会館

- 議事 (1) スポーツ科について
(2) 教育課程について
- 資料 17 第5回 議事録要旨

《第6回》 平成19年12月18日(火) 午後3時～5時
(於) 明石商業高等学校 同窓会館

- 議事 (1) 報告書について
- 資料 18 第6回 議事録要旨

【おわりに】

生徒の状況について意見交換が交わされる中、生徒指導上の問題など様々な課題について指摘を受けた。制度改革だけにとどまらず、日々の校内生活の見直しなど学校の努力によって改善される内容も多く含まれている。明石商業高等学校が「市民の誇りとなる学校づくり」をさらに進めるために以下の点を校内の課題として提示し、明石商業高等学校長期構想検討会議を終了する。

1 学習指導の充実

- ・商業科類型の教育効果の検証に基づいて、社会の求める能力や専門性に応えられる人材育成を進め、生徒や社会のニーズに応じた教育課程を編成し特色化を図る。

2 生徒指導の充実

- ・安心して進学、通学できる学校づくりを進める。
- ・厳しさと内面を育てる生徒指導の確立を進める。

3 中学校との連携

- ・中学校との連携を強化し、生徒の多様なニーズと適性に応じた進路指導体制を確立する。
- ・中学生とその保護者に商業教育の特色をわかりやすく説明する機会を設ける。

4 大学・専門学校との連携

- ・高度な知識の習得や資格取得を可能にするために大学や専門学校との連携を強化する。
- ・高大7年間教育を視野にいれた教育課程の編成を検討する。

5 安定した進学・就職先の確保

- ・商業科の特色を生かした進学を進めるとともに、確かな学力を身につけ、多様な進路選択を可能にする。
- ・今まで培ってきた就職の支援体制を大切にしながらも社会が求める人材育成を進め、時代の変化に対応したさらなる就職支援体制の確立に努める。

確かな学力 … 知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの
--

6 職業体験の充実

- ・株式会社明商（メイショップ）など職業体験学習の充実を図る。
- ・キャリア教育の研究実践を進める。

7 地域貢献

- ・地元諸団体とのさらなる連携を図る。
- ・地域と連携した活動の充実を図る。
- ・市民向けの商業教育講座の開講や施設の地域開放など開かれた学校づくりを進める。
（商業の専門分野やスポーツを通して小中学校や市民の活動を支援する）

8 明石市民の誇りとなる学校づくりを進める。

- ・市民と連携した町づくりに協力し、市民の応援に応えられる学校に成長する。